

今年も賑やかに

いさい踊り盆踊り大会

いさい踊り盆踊り大会が今年も8月18日(水)に中山公民館前駐車場で行われました。

今年は、小泉八雲来町120年の節目にあたり、これを記念して松江市より小泉八雲の曾孫の小泉 凡さんも何年かぶりに参加されました。

例年にならない猛暑が続く中、この日は夜風が心地よい盆踊りにもってこいの天候となり、中山

いさい踊り保存会のみなさんの唄や太鼓にあわせて、子どもから大人まで大きな踊りの輪ができました。



▲揃いのゆかたで踊るいさい踊り保存会の皆さん

夏の思い出出あれこれ

「かこいっはい見つけたよ！」



家所長の鷲見寛幸さんと五千石小学校教諭の千村隆司さんを講師に、児童26人と大学生ボランティア5人が参加しました。砂浜に生息する植物のコウボウムギやハマヒルガオの種取り、そして、カニやインダミ、ホンヤドカリなどを採取して観察しました。

8月17日(火)、木料海岸で名和公民館が主催する子どもカールチャー教室「海辺の自然観察会」がありました。

残暑の厳しい中、大山青年の初めは暑さで少し元気がなかった子どもたちでしたが、海に入れば元気百倍! 「カニ、そっちに逃げたよ」「この石の下!」と大はしゃぎ。元気に海辺の自然体験を楽しみました。

夏のひととき

「納涼の夕べ」

8月16日(月)、大山公民館で「納涼の夕べ」が開かれました。このイベントは、毎年企画・準備の段階から所子地区の住民によって行われています。

吹奏楽の演奏で始まり、地元で活動するサークルのステージ、大迫力の花火と続いて、最後はみんなで輪になり盆踊りを踊りました。観客は暑さを忘れ、つかの間の涼を味わいました。



▶子どもたちのダンスステージは迫力満点!

韓国襄陽部の中学生と交流



7月27日(火)から30日(金)の4日間、大山町内の中学生9人と後藤中山中学校教頭を始めとする引率団3人の総勢13人が、大韓民国江原道襄陽郡を訪問しました。また、8月6日(金)から8日(日)には韓国襄陽郡の中学生が大山町を訪れました。

これまで、隔年で訪問と受け入れを行っていましたが、ホームステイのパートナーが異なるなど深い交流ができないなどの理由により、今年から相互訪問という形式に変更しました。

この交流事業は今回で10回目(うち1回は中止)。両国の子どもたちが行き来することで異文化を理解し、お互いの国に関心を持つきっかけとなっています。

ホームステイを通じ、生徒だけでなく家族を交えた深い交流ができました。この事業が終了した後、参加した生徒は手紙のやり取りをするなど友情を深めています。